

水性コンポウレタン

特 長

水性コンポウレタンは、水性反応硬化形のポリウレタン樹脂を結合材として用いた塗料です。架橋構造による強靱な塗膜は、水性でありながら溶剤形に匹敵する性能を發揮します。

- 緻密で強靱な塗膜は、耐候性、耐水性、汚染防止効果に優れています。
- 防かび・防藻性に優れています。
- 一液形のため、調合が不要で、常に安定した品質が確保できます。
- 長期メンテナンスサイクルを含めたトータルの耐久性が、従来のアクリル樹脂系塗料に比べて大きなコストメリットを生み出します。
- 水性のため、火災や有機溶剤中毒の心配がなく、屋内外で安心して使用できます。

用 途

- 各種複層仕上げの上塗り
- 各種建材の表面仕上げ
- 各種改装工事

荷 姿

水性コンポウレタン 16kg石油缶、4kg缶
(艶有り、半艶、3分艶、艶消し) (標準塗坪：53~64㎡/16kg缶、13~16㎡/4kg缶)

危険情報と安全対策

ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。また、MSDS（製品安全データシート）もご参照ください。
ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。

標準施工仕様

(20℃、65%RH)

材 料	調合 (重量比)	所要量 ^{※1} (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)			備 考
				工程内	工程間	最終養生	
*2 水性コンポウレタン	100	0.25~ 0.30	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600~1000ml/分 パターン幅：25~30cm
*3.4 清 水	0~20	—					

※1. 「所要量」はロスを含みます。被塗装面に付着させる塗料の「標準塗付け量（ロスを含まない）」は、水性コンポウレタンで「0.22~0.24kg/m²」となります。各材料の使用数量などを算出する際には、「所要量」を基準としてください。

※2. 複層仕上げの上塗りに用いる場合は所要量が0.30~0.35kg/m²になります。なお、この場合の標準塗付け量は0.26~0.28kg/m²となります。

※3. 清水の希釈率は、スプレー塗時で「10~20」、ローラー・刷毛塗時で「0~10」となります。

※4. 希釈率は、色相及び施工時の気温により変化することがあります。ご了承ください。

※5. 下地の種類により、適切な下塗材の選定が必要となります。特に押出成形セメント板・GRC板・PC部材などには、下塗材として弱溶剤形の★マイルドシーラーEPO（14kgセット）、または溶剤形の★ミラクシーラーEPO（15kgセット）をご使用ください。

注）溶剤形の製品（★印）については、「危険情報と安全対策」をよくお読みください。

性能試験成績表

試験項目	結 果	規定または試験方法
隠ぺい率%(白及び淡彩)	98	95以上
鏡 面 光 沢 度	82	70以上
密 着 性	100/100	スレート板上での基盤目試験結果
耐 水 性	合 格	96時間浸したとき光沢保持率が80%以上で、塗面に異常がないものとする。
耐 アルカリ性	合 格	水酸化カルシウム飽和溶液に7日間浸したとき光沢保持率が65%以上で、塗面に異常がないものとする。
耐 塩 水 性	異常なし	3%塩化ナトリウム水溶液168時間浸漬
耐 洗 浄 性	合 格	JIS K 5660 6.11 に準拠。1000回の洗浄に耐えるものとする。
耐湿潤冷熱繰返し性	合 格	JIS K 5600-7-4 に準拠 光沢保持率が80%以上で、湿潤冷熱繰返しに耐えるものとする。
促 進 耐 候 性	1200時間合格 耐候形2種相当	JIS A 6909 7.19 促進耐候性試験B法に準拠。
屋外曝露耐候性	合 格	JIS K 5600-7-6 に準拠 12ヶ月の試験で、白亜化の等級は2以下で、割れ・はがれ・膨れ及び穴がなく、色とつやの変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。
安 全 性	消防法分類	非危険物
	有機則区分	適用外

この試験結果は、水性コンポウレタン（艶有り）のものです。